

第6学年1・3組 音楽科学習指導案

指導者 坂本香織

題材 「聴いて、歌って、雅楽の世界を味わおう」

本題材の目標

◎ 雅楽「越天楽」の楽器の音色や旋律、音の重なりなどを味わいながら聴いたり、自分の「越天楽今様」を七五調の歌詞や曲想に合う歌い方を工夫して表現したりすることができる。

本題材の考え方

- 本題材では、雅楽の歴史や文化を知った上で、楽器の音色や旋律と曲想との関わりについて考えながら鑑賞したり、特徴を生かして自分の表現をつくりだし、歌ったりして音楽に親しむことをねらいとしている。具体的には、①雅楽「越天楽」の特徴を生かした歌い方や歌詞について思いや意図をもつこと、②雅楽「越天楽」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解したり、その特徴に合う表現をしたりすること、③音楽の特徴を味わって聴いたり、その文化に触れたりする学習に主体的に取り組む、雅楽への興味・関心を広げることなどである。このことは、GTによる雅楽の演奏や解説を聴いたり、感じ取った特徴を生かして表現したりすることで、当時の音楽の面白さを追体験し、日本文化のよさを実感できる上で価値がある。
- 本学級の子供たちは、第5学年「日本と世界の音楽に親しもう」において箏と尺八の音色のよさやその掛け合いの面白さを捉えながら「春の海」を聴くことができた。しかし、我が国の音楽を文化的・社会的な面を踏まえて聴いたり、音色や曲想を生かした表現を行ったりする経験は十分ではない。そこで実際に雅楽「越天楽」を聴き、楽器や文化について知る経験や、そこから派生して生まれた「越天楽今様」を歌ったり、自分なりの「越天楽今様」をつくったりすることで我が国の音楽のよさや面白さを体験的に捉えさせていきたい。このことは、自国の音楽をより身近に感じ、親しみをもつ上で価値がある。
- 本題材の導入段階では、日本の曲や楽器について興味をもち、雅楽についてもっと知りたいという題材の目標を設定する。そのために、GTによる雅楽の演奏や解説を聴き、楽器の音色や曲想を感じ取ってその気付きを交流したり、その時代の文化や歴史と結び付けたりしながら音楽を聴いたりする。展開段階では、雅楽「越天楽」に歌詞がついた「越天楽今様」を歌い、自分たちでも今の気持ちや四季のようすなどを歌詞にのせて「新・越天楽今様」を創り出し、当時の人々が楽しんでいた文化を捉えることができるようにする。最後に終末段階では、福岡にも雅楽「越天楽」から派生した民謡「黒田節」があることを知り、我が国の文化が様々な形で伝わり発展してきたことを捉え、それを身近に感じることができるようにする。

学びの文脈

《主に学問的・文化的側面》

社会科などとの関連的な学びによって、我が国の文化の1つである音楽で関心をもち、その文化を体験することを通してそのよさや特徴をより身近に感じることができるような文脈をつくっていく。

題材計画（全4時間）

題材における活動・内容・手立て	
1	雅楽を聴いて曲想や気付きを伝え合ったり、GTの話をもとに歴史や文化について調べたりする。 1 ○ 楽器の音色や旋律と曲想の関わりを捉え、そこから生み出される曲想を感じ取ること ※ 実際の楽器を見たり触ったり、その文化や所作についてGTの話聞く場を設定する。
現代の音楽とは全く感じの違う雅楽が、今も日本の文化として受け継がれているのはどうしてだろう。	
2	「越天楽今様」を、雅楽「越天楽」の特徴を生かしながら考えた歌い方で表現したり、歌詞を自分でつくりだして表現したりする。 2 (1) 「越天楽今様」について知り、歌う。 ① ○ 雅楽「越天楽」と「越天楽今様」のつながりを捉えたり、その特徴に気付いたりすること 昔の人々と同じように、自分たちもこの曲に歌詞をつけて歌ってみたいだろう。 (2) 「新・越天楽今様」を考えて工夫し、表現する。 ②/2 本時 ○ 当時の民衆に親しまれたように自分なりの歌い方や歌詞で表現することで、我が国の音楽と自分の生活を結び付けたり、よさや面白さを感じ取ったりすること ※ 教師による「新・越天楽今様」のモデル提示を行う。
<p>鑑賞</p> <p>表現</p> <p>雅楽「越天楽」 ・優雅な曲想 ・独特な楽器の音色 ・ゆっくりとした速さ</p> <p>「越天楽今様」 ・七五調の歌詞 ・一定の拍や速さ ・歌いやすさ</p> <p>「新・越天楽今様」 ・七五調の歌詞 ・今の気持ちや喋りを込めた歌へ</p> <p>高貴な身分の人々に親しまれた。</p> <p>民衆に親しまれるようになった。</p> <p>今の私たちが創り出す音楽</p>	
3	雅楽「越天楽」から生まれた民謡など聴く。 1 ○ 工夫した歌い方や歌詞で表現することで、我が国の音楽に親しみ、同じように派生した「黒田節」についての曲想や特徴を捉えること ※ 雅楽という文化が様々な形で伝わってきたことや体験したことで得た気付きや学びを共有する。

本題材における音楽的な見方・考え方

雅楽「越天楽」「越天楽今様」のよさや面白さを、曲想や音楽を形づくっている要素から捉え、自己のイメージや生活、文化などと関連付けながら聴いたり、表現したりすること

本時の目標

- 七五調の歌詞や歌い方を工夫しながら、自分なりの「越天楽今様」を思いや意図をもって表現することができる。

本時の学習過程（3／4時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	手立て
<p>1 「越天楽今様」について振り返り、歌詞や歌い方を工夫しながら「新・越天楽今様」をつくるという見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「新・越天楽今様」をつくるために、必要な工夫の視点（歌詞や速度、声色など）についてどうするか考えをもつこと <p>・ 神秘的な雰囲気合う歌い方にするにはもっとゆっくり歌った方がいいな。</p> <p>・ 七五調の歌詞をうまく旋律にのせて歌うのは難しそうだな。</p> <p>「新・越天楽今様」を、歌詞や歌い方を工夫して表現しよう。</p> <p>2 「越天楽今様」を自分が考えた歌詞や歌い方で表現したり、聴き合ったりする。</p> <p>(1) 「新・越天楽今様」を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がいれた歌詞や曲想を基に、どのような歌い方にするか思いや意図をもつこと <p>・ 冷たい冬の情景を表したいな。元気な声より優しい声で歌おうかな。</p> <p>・ 音がぶつぶつと切れるとおかしいので、ゆったり伸ばしながら歌おう。</p>	<p>※ 活動の見通しをもてるようにするために、前時までの学びの過程を Google スライドに記録できるようにする。</p> <p>※ 歌い方の工夫の手がかりとすることができるよう、教師による「新・越天楽今様」のモデル提示を行う。</p>
<p>表現</p> <p>「新・越天楽今様」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 七五調の歌詞 ・ 今の気持ちや様子を込めた歌へ <p>今の私たちが創り出す音楽</p> <p>○ 6年生で深まった絆を歌詞にしようかな。「越天楽」のゆったりとした曲想にも合いそうだな。</p> <p>新・越天楽今様</p> <p>きれいな音を響かせた 思いを込めて響かせた 月の光に 負けないほどの 美しい調べ 月見なり</p> <p>秋風そよ吹く 運動場 全力つくし 臨んだよ 最高の技の 生まれけり</p> <p>○ つくってみると、それぞれの個性があって面白いな。文化も色々形を変えてつながっているんだな。</p>	
<p>(2) 自分たちで作り出した「新・越天楽今様」を聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いの工夫を聴き合うことで、曲に対する感じ方の違いや、イメージの違いを受け入れ、様々な音楽の感じ方を楽しむこと ・ リレーしながら歌ったけど、歌い方も歌詞もいろいろあって面白いな。 ・ 1つの音楽から多様な感じ方をして、それが文化として残っているのだな。 <p>3 「新・越天楽今様」をつくって表現したことを振り返ったり、このように形をかえながら残る文化について考えたことを交流したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時での学びを全体で共有し、次時への学習に生かすこと <p>・ 「越天楽今様」を自分でつくってみたり、他の人の作品を聴いたりすることで、多種多様な音楽のとらえ方があったり、表現の仕方があったりすることに気付いた。雅楽「越天楽」を様々な人が自分の感じ方で捉え、それを形にして残してきたから、今でも文化として残っているのだと思う。少し遠いものだなと思っていた雅楽に親しむこともできた。</p>	<p>※ どの子供も表現できるように、話し合ったり、音楽を聴き合ったりする相談グループを設定する（歌づくりは個人で行う）。</p> <p>※ 本時での学びを残し、次の活動へ繋げられるようにするために、学びの履歴を残す時間を確保する。</p>

【本時求める子供の姿】

- ☆ 「新・越天楽今様」の歌詞を自分の気持ちを込めてつくったり、それに合うような声色や音の伸ばし方などの歌い方を考えて工夫したりすることで、「越天楽今様」をより身近に感じる事ができたな。